



だんだん

～ AFS 松江支部便り ～

発行：2014年3月31日
〈第103号〉

編集・発行
(公財)AFS日本協会 松江支部

*** CONTENTS ***

- ◆寄稿 若い力に期待 島根県副知事小林淳一
- ◆テレッサさん（デンマーク）帰国
- ◆市民活動フェスタに参加
- ◆秋 MEXT 生プーさん（タイ）の受入れ
プーさんを受入れて 赤松恵子
プーさんの留学体験記
- ◆61 期年間派遣生（冬組）
留学にあたって 開星高校 宮内美穂
表敬訪問 副知事、県教育長、松江市長
派遣生壮行会・出発
- ◆春年間生バル君（ハンガリー）到着
- ◆特集「どんな10代を過ごしたら・・・」
講演 秋葉忠利理事長、佐藤良明講師
パネルディスカッション「高校留学を語ろう」
寄稿 初代 AFS 松江支部長 酒井董美
- ◆お知らせ
AFS 年間派遣プログラム第 62 期生募集

<寄稿>

「世界へ飛びだす若い力に期待！」

島根県副知事 小林淳一



AFS 交換留学生のみなさんの希望に満ちた熱い思いを聞くと、私はいつも若い力の可能性を感じずにはられません。彼らの輝いた笑顔を見ると自然とこちらも笑顔になりますし、元気が湧いてきます。

これから新しい世界へ旅立とうとしているみなさんに、私がいつもお伝えしていることがあります。それは「今しかできない素晴らしい体験をしてください」ということ。そして、「島根県のことを世界のみなさんへ紹介してくださいね」ということです。

もうずいぶん前のことになります。私がまだ高校生だった頃、留学したクラスメイトから届く便りに、まだ見ぬ海外が身近になったように感じたものでした。

それから長い時間が経ち、今やインターネットで世界中の人と繋がることができるようになりました。いろんな情報が瞬時に入手できますし、自ら発信することもできます。世界は自分のすぐ近くにあり、可能性もどんどん広がっていきますが、それでも自らの体験に勝るものはないと思っています。

初めての土地で悩んだり迷ったりすることもあると思います。ですが、柔軟性に富み、多くのことを吸収できる10代にかけがえのない経験を積まれることは、生きた語学の習得だけではなく、その後の人生において大きな財産となることでしょう。

帰国後のアンケートでも、一番多かったのは、「広い視野・グローバルな視点で物事を考えられるようになった」という感想だと聞きました。留学経験を通じて複眼的な視点を持ち、また問題が起きた時には、それを自ら解決しようとする。それこそが、今求められている人材ではないでしょうか。交換留学は、いわば人間力を培う制度なのかもしれません。

さて、日本から世界に飛びだしていく若い力があるように、世界中から我が島根にも留学生達がやって来ます。彼らと話す機会にも恵まれましたが、1年間の留学プログラムの間一生懸命日本語を学び、友達を作り、大きく成長してそれぞれの故郷に帰って行かれました。

私には、彼らの成長を見るたびに、感じることはありません。それは、ホストファミリーのみなさんが本当に愛情をもって彼らを受け入れ、家族にしてくださったのだということです。

留学先では、言葉や文化の違いから、最初はう

まく馴染めないこともあるでしょう。そんな時、自分を支えてくれる家族がいれば、どんなに心強いことかと思えます。

遠く離れた国へわが子を送り出すご家族のみなさんも、現地のホストファミリーがこのように温かく迎えてくれると分かれば、安心して任せることができるでしょう。そして、自信に満ちて帰ってきたわが子を迎える時、どんなにか誇らしく思われることでしょう。その後もお互いの友情と交流は続き、それがきっと、大きな国際交流の輪になることと信じています。

私も、それぞれの国の代表として世界に羽ばたくみなさんの活躍を願わずにはいません。明日を担う若い力を、これからも応援してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、彼らを支え続けてこられた多くの方々へ心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

テレッサさん（デンマーク） 帰国

8月28日テレッサさんが5か月間の留学を終えて帰国しました。ホストスクールの開星高校、ホストファミリーのみなさんお世話になりました。ありがとうございました。



前列左から3番目テレッサさん（8/28 米子空港）

松江市民活動フェスタに参加

9月14日（土）松江市民活動センターで開催された松江市民活動フェスタに参加しました。

AFS 松江支部では、AFS や受け入れ生のマルコさんやテレッサさんの母国紹介、派遣帰国生松本春希さん（松江東高校2年）のフランス留学のアルバムや支部活動状況のパネルを展示しました。

定番となった手作りクッキー、アップルケーキ、紅茶等の販売に立ち寄られた多くの市民の皆様にご覧いただきました。



AFS 展示ブース

秋 MEXT 生プーさん（タイ）の受入れ

10月5日から25日までの3週間、MEXT 受入れ生のプーさん（タイ）がやってきました。ホームステイや学校生活を通じて、気づき感じたプーさんの率直な異文化体験記から、日頃、当たり前に見過ごしている日常が新鮮に映りました。留学生が

ら学ぶ異文化理解教育の一端です。



開星高校にて



プーさんの送別会～お好み焼パーティ～10/23

タイから来たプー君を受入れて

ホストファミリー 赤松恵子

プー君は3週間の短期間の留学でしたが、本当に真面目に日本語の勉強に取り組みました。

タイでは小さい時から親元を離れていて、夕飯はいつも白いごはんを買ってインスタントラーメンを毎晩食べていたと話してくれました。

「日本の食べ物は美味しいです」と言って、回転寿司、うどんは大好きでした。

また、日本語に取り組む姿勢は本当に真剣で、きれいな日本語を話し、目上に対しては、敬語で話しました。

留学が自分を変えるためのチャンスでもあったようです。少し自信が持てたと話してくれました。

留学生がホームステイすることによって、私たちホストファミリーも異文化体験ができました。AFSのスタッフの皆様、開星高校の皆様ありがとうございました。

プーさん(タイ)の留学体験記

開星高校 53R Poomipat Dubsok(タイ)



ずっと日本に興味があった。それは日本のテレビゲームを始めた時だった。そして日本語をわかるようになりたいと思った。それが

僕が日本語を勉強するようになった第1の理由だ。それから、僕は日本の音楽やアニメにも興味を持つようになった。日本の音楽を聴き、日本のアニメを観て、少なくともちょっと日本語の勉強になったらいいなと思っていた。単語の並べ方が自由なところがあり日本語というものが好きになった。そしてタイの高校に入学後、選択科目として日本語を学ぶ機会を得た。

すぐに言語コースに入ることに決めた。そして Chulalongkorn 大学で日本語を専攻することにした。この大学はタイで人気のある大学だ。

AFSで短期のプログラムがあることを聞き、興味を持った。日本を見てみたいし、日本語が上手になりたいと思ったからだ。Chula 大学はとても人気があり、日本語ができるとちょっと入るのに有利になるとも思った。自信はなかったが、AFSの試験に臨んだ。そして、なんと選ばれたのだ。これが、僕のちょっとした冒険旅行の始まりだった。日本に行けるだけでもとてもありがたいし、感動した。

このプログラムは文部科学省がサポートしている。ということは、日本に来るのに全額を払わなくていいのだ。毎年8名もの生徒をサポートしてくれているのは、驚きだ。今年が三度目でこれから将来もっと多くの生徒が参加するだろう。

僕の日本に来た最初の印象は、道路がとてもきれいで、とてもいい状態に整備されているということだった。日本に来る前に日本人はきれい好きできちんとしていると聞いていたけど、本当だった。例えば、バス。日本のバスはとてもきれいで、時間通りに来る。とても便利だ。正確に来るので、時間の無駄がない。タイでは、どのくらい交通渋滞があるか予測できないので、ずっとバスを待つしかない。さらに、交通量が毎日変わるのだ。また、タイのバスは、もう何十年も使っているような感じ。いまだに紙の切符だから、バスの床は紙切れが散乱している。それに比べ、日本ではバスカードいうものがあり、とても便利で能率もいいし、資源の無駄にもならない。それと、日本人が行き来によく使うのが自転車だ。これは公害を減らすのにすごくいい方法だと思う。それに、運動にもなる。タイでは事情が全く違う。自転車に乗っている人を見たことがないし、オートバイも乗っている人を見たことがない。たぶん、こういう訳で、日本がこんなにきれいなんだと思う。川の水もきれいだ。こんなにきれいなのは、見たことがない。

僕の2番目の日本の印象は、地域社会の人々についてだ。日本人の思考についてとても感銘を受けた。はっきりと言えることは、日本人は前向きな考えをもち、友好的だということだ。そういうことがわかり、長く滞在しても日本の地域社会に適応できるだろうと思った。前向きに考えて暮らす人々の社会で暮らし、生活もずっと自然で気取らないものになったのだろう。学校の雰囲気もタイで経験したものと、かなり違うものだった。というのも、どこでも人々がとてもいい関係で、分け隔てがない。それと気づいたことは、みんながペースをそろえていることだ。これで、クラスが一致団結できていると思った。タイでは、学校内で噂話をよくすることがある。ある生徒はその行動、つまり「だらしない」とか「謹慎中」とかで

嫌われることがある。でもここでは、おこっていない。成績については、タイでは、1から4という成績で、1というのは一番低く、4が一番いい成績だ。自分のクラスだけ考えても、成績は、3.9~2.1という、大きな違いがある。ほとんどのタイの生徒は放課後また週末に個人指導を受けている。ここの学校は学業の成績だけというよりもいろいろな活動に力を入れているように思える。自分の考えは、勉強ばかりするより、いろいろな活動をしたり、スポーツをしたりしたほうがいいと思う。タイでは、体育は1週間に1時間しかないし、放課後のクラブ活動もない。だって、みんな勉強の個人指導を受けているから。

3週間の滞在中、本国タイで経験したものと違う経験をたくさんした。感銘を受け、どうしてそんなことができるのか不思議にさえ思ったのは、日本人の親切さと前向きな考え方だ。3週間はあっという間だったが、将来、ぼくにとって有益な、多くの役に立つ情報を手に入れた。たった3週間の滞在で得たこれらの情報にとっても感銘し、もっと長くここにいたことができれば、自分自身どんなに変わることができるだろうと思った。きっと、実際ここに住んだら、僕の人生はまったく違うものになるだろう。人間は環境に影響されるし、前にも言ったように、日本人は、ほとんどがプラス思考で、そのような社会に住んでいると、自分自身向上させ、心身ともに不調なものを完全になくせるだろう。

第61期年間派遣生 留学にあたって

開星高校2年 宮内美穂(コスタリカ)

私がコスタリカに留学するきっかけになったのは、中学2年生の時に行ったニュージーランド研修です。その研修を終えてから留学したいと思いはじめました。しかし、学校の勉強や部活動が忙しく、そう簡単にはいきませんでした。そんなとき、留学から帰ってきた先輩や友達の大きく成長された姿を見て、自分も先輩のように変わりたいと思い、テニスを辞めて留学を決意しました。

私は留学を決めるまで、コスタリカはどこにあってどんな国なのか知りませんでした。AFSのパンフレットの中のきれいな伝統衣装の写真を見て「ここだ」と思い、先生からの勧めもあってコスタリカに決めました。

そこで感じたのは、私たち日本人がコスタリカを知らないように、コスタリカの人たちも日本のことを詳しくは知らないのではないのかと思いました。そこで、コスタリカに行ったら、ゆかたや華道、そろばん、よさこいなどを披露しようと思います。そして、伝統衣装を着てサルサに挑戦したいと思っています。

また、私の帰国までの目標として、毎日鶴を折り千羽鶴を完成させて、ホストファミリーにプレゼントすることです。今の私にしかできない経験を胸を張って身体いっぱい感じてきたいと思います。

派遣生表敬訪問

1月28日、宮内美穂さんはコスタリカへ出発を前に副知事、県教育長、松江市長を表敬訪問し留学の抱負を語り、激励を受けました。



今井康雄
県教育長に
出発のあいさつ



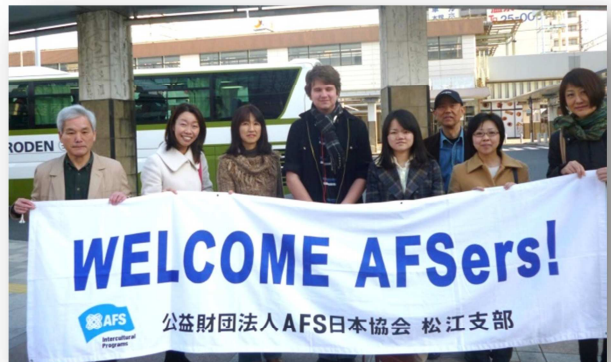
松浦正敬
松江市長に
ごあいさつ



宮内美穂さん壮行会
(一月二十五日 松江市国際交流会館)

春年間生到着

3月22日ハンガリーからバル君が到着しました。ホストファミリーは松本祥一さん宅、ホストスクールは松江東高等学校です。来年2月上旬まで滞在の予定です。



★★ホストファミリー募集!★★

AFS 留学生を家庭に迎えてください。

応募条件はただ一つ。「**単身でないご家庭**」

外国語ができなくても構いません。

日本語で話しかけるだけで受け入れができます。

～**秋年間受入生**～

2014年8月下旬～2015年7月中旬

特集 **どんな10代を過ごしたら なりたい大人になれますか？**

～今、10代留学。人とつながる、世界と生きる～ **AFS 高校生交換留学説明会**

2月9日、松江市のサンラポーむらくもにおいて高校留学について考える留学説明会&シンポジウムを開催しました。以下はその概要です。

講演Ⅰ『今、10代留学を考える』

秋葉忠利氏(公財)AFS 日本協会理事長

「留学先の米国の高校で、広島原爆投下についての教師の説明に衝撃を受けた経験が、私の人生の原点となりました・・・」



講演Ⅱ『脱日本語の冒険』

佐藤良明講師 (アメリカ文学者)

「むかし人は同じ場所に生きて死んだ。遠き世界への旅立ちが命がけの冒険だった。いま地球上、どこも近く、同質になった。「グローバル」と政財界の人は言う。でも、それ、違うのだ。土地が違うと人も違うし、文化も違う。そのことを肌で知ること。違う暮らしを経験しながら、違う考えに、一度自分を染めてみる。そして違っても、結局同じだと納得すること。十代の柔らかな心で、そんな経験ができることのメリットは測りしれません・・・」



佐藤良明講師 (アメリカ文学者)

パネルディスカッション

1 AFS との出会いについて

(土江 開星高校3年、2013アメリカ派遣帰国生)

1年生の夏、留学担当の先生から情報を得た。

(佐藤 1968-1969 アメリカ派遣生)

群馬ではAFSのことだれも知らなかった。留学=アメリカ=天国という印象だった。

(秋葉 1959-1960 アメリカ派遣生)

付き合いで試験を受けたら合格したのは自分1人だけ。外国に行くのが稀な時代だった。

(竹村 ホストファミリー経験者)

- ・他のお母さんの紹介がきっかけ。
- ・今まで短期・長期10人以上は引き受けた。

Ⅱ AFS 体験について語る

(土江)

・留学当初は英語が分からない、ホストファーザーがAFS留学派遣体験者なので気持ちを分ってくれた。他の家族とも喧嘩もしたが、帰国するころには本当の家族のようになった。

・現地の生徒と同じようにテストを受け、留学生も特別扱いはない。授業についていくのは大変だったが、友達や先生が助けてくれ、無事に単位もとれた。

・留学生同士で励まし合った貴重な経験。世界中に友達がいると思うと、勇気が出る。1人でも多くの方に留学をして欲しいと思っている。

(佐藤)

50年たってもホストファミリー(HF)との関係は薄らぐことはない。妻と私の2つのHFがあり、今でもたびたび訪問している。

(秋葉)

土江さんと時代は変わっているけど、基本は同じ。特に難しかった社会科では、リーダー格の生徒の隣に座らせてくれた。ホストスクールの配慮が役立った。

(竹村)

一番印象に残っているのはドイツの15歳の女の子。帰国した半年後に弟と一緒に遊びに来たり、岡山にインターンシップに来た。その後日本の大学に入学。結局8年付き合っているがそれが私にとっては宝物。娘ではないが娘。先日も、大きな荷物を置いて帰り「来年、大学院に来るから」と。

留学生には「私に何か伝えたいときは日本語で言ってくれ」と、結果的にこれが良かった。



(左から)

澤支部長、土江友里子さん、竹村法子さん
秋葉忠利理事長、佐藤良明講師

Ⅲ AFS との「これから」

(土江)

将来は英語の教師になりたい。留学体験を生徒につなげ留学に興味を持ってくれたらいいと思う。

(佐藤)

結局、ヒューマンフェイスが一番大切なのだと気づいた。3.11の際のメールをきっかけにAFSで昔知り合った彼女と会うことができた。こういうヒューマンフェイスが教えてくれることがある。

(竹村)

ホストファミリーの横のつながりを作っていくと大きな力になる。おばさんパワーはすごいし、情報力も半端ではない。

(澤 支部長、コーディネータ)

高校生の留学では、クラスメイトという仲間ができ、部活動を通じて友情も深まることが期待で

きる。大学の留学は専門科目を学ぶことが目的なので、コミュニケーション能力の形成において、ホストファミリーや地域が関わる高校留学のようにはいかない。

<会場からの意見>

・秋葉先生のお話の中で多様性の大切さ。同じことの方が珍しい、というお話は印象的。若い10代の内に世界に飛び出して行くということが大切だと思っているので、勇気をもって飛び出して行っていただきたいと思っている。

・ホストスクールの教員をしている。高校での受け入れに対しての周囲の印象が4段階「物珍しさ」→「いるのが当たり前」→「コミュニケーションがとれるようになる」→「違いがあっても当たり前が分かるようになる」という4段階があると思う。いろいろな生徒がいるが、それぞれの生徒にとって大きな影響があると思う。

・ヨーロッパにおける母語教育は、物事を論理的に捉えていくという視点がある。日本では、その点が苦手な気がする。能力形成期に論理的に積み重ねていくという視点を大切にしていけると、高校の時の育ちも違ってくるのではないかと。

<留学説明会を終えて>

・70名余の参加を得て、秋葉理事長と佐藤講師の講演及び派遣生を交えたパネルディスカッションにより「10代の高校生留学」の意義を共に考え、語る時間を持つことができたことは、意義深いものでした。

・40～50年前と去年帰国したばかりの高校生留学体験が、時代を越えても変わらない十代の体験であるということを知ることができた。

・成長過程にある時期の留学体験が、自己成長とその後の人生をつくっていくことを具体的に聴けたことは素晴らしいことであった。

・特に、グローバル人材養成や英語教育の学校教育への導入などが進む中で、教育委員会の先生方とともに「高校生留学」について、考え、意識を変えていくきっかけとなったことは、有難かった。

秋葉忠利 AFS 日本協会理事長の
講演の感想を中心に

ただよし
酒井 董美



秋葉忠利 AFS 日本協会理事
長は、生え抜きの AFS 生
である。氏は 1959 年(昭和
34)から年間留学生として
アメリカへ留学。そして衆
議院議員や広島市長を長年
務めたキャリアを持つ。氏

は常に「AFS 生体験が今日の自分の原点である」
と言っておられる。そのような AFS のトップが、
こうして松江市で講演をされるのであるから、会
員の一人としてまことに嬉しいことであった。

私は一度、東京の本部主催の会合で、当時、衆
議院議員だった秋葉氏と簡単な挨拶を交わしたこ
とがあった。平成に入って間もないことだったか
と思う。精悍で頭の切れる方という印象を持った
が、まさか東京都出身で衆議院議員の氏が広島市
長を三期務められるとは思いません、まして現在、
AFS のトップに就任されるとは、まったくの予想
外であった。それだけにどのような講演になるかと、
ひそかに期待していた。そして予想に違わず
高校生留学の重要性を訴えられた良い内容だっ
た。特に印象的だった 3 点を挙げておく。

①みちのく応援留学生制度の創設…東日本大震災
を踏まえて出来たこと。



②ソフトバンク孫正義社長が毎年高校生 100 名を
3 年間 10 億円を投じてアメリカバークレーに 3 週
間留学させていること。

③明治維新の成功の原動力は、300 藩それぞれが
独自の教育制度を持っていたこと。
などであった。③については、①②とはやや異質
な指摘ではあるが、いずれにしても、柔軟な思考
力を持った高校時代の外国への留学の体験は、何
物にも代えがたいものであり、帰国後、その人物
の人生を大きく発展させることになることを印象
づけた。

また、シンポジウムでは、竹村法子さんの外
国人留学生を多数受け入れたホストファミリーの
経験を通して、横のつながりを持ちながら、困難
に対処した結果、今でも成長した元留学生が親し
み懐かしんでやって来る話など、国際交流の素晴
らしさを示す話だと、ひそかに納得しながら聴か
せていただいた。

そして、ここまで発展させるのにどれだけの困
難があったことだろうか、松江支部役員の方々
の蔭のご努力に思いを馳せながら、うれしく眺め
させていただいた。(筆者は初代 AFS 松江支部長、
元 AFS 日本協会理事)

AFS 年間派遣プログラム第 62 期生募集

一般選考 A 日程

6 月 15 日(日) 6 月 2 日(月)締切

一般選考 B 日程

7 月 20 日(日) 7 月 7 日(月)締切

一般選考 C 日程

10 月 5 日(日) 9 月 22 日(月)締切

【本プログラムについての問い合わせ先】

(公財) AFS 日本協会プログラム本部

TEL:03-6206-1913 FAX:03-3507-4300

WEB サイト : www.afs.or.jp

発行 (公財)AFS 日本協会松江支部

支部長 澤 アツ子

〒690-0826 松江市学園南 1-22-34

Tel&Fax 0852-21-5553

Mail : a-sawa@afs.or.jp